

広告

企画・制作／
読売新聞社広告局

医師が教える「美・健康ナビ」



木下 孝昭先生
医療法人社団 孝昭クリニック院長
医学博士

医師による美と健康に役立つ
アドバイス「美・健康ナビ」を12
回シリーズで連載しています。

第4回 がんけん 眼瞼下垂症

「まず専門医に相談を」

「眼瞼下垂」とは、まぶたを持ち上げる筋肉（眼瞼挙筋）が弱まり、十分に目が開かなくなる状態のことです。先天性の場合もありますが、多くは加齢で起こります。眼瞼下垂になると、額の筋肉でまぶたを上げたり、あごをあげて上から物を見たりするので、眠そうに見え、額に深いしわが入る症状が外見に表れます。さらに頭痛や肩こり、自律神経失調症などを引き起こします。

治療は、上まぶたを切開して眼瞼挙筋を固定する手術が多く採用されます。術後は腫れがあり回復には時間が必要で、健康保険の適用外の自由診療では、まぶたを切らない方法も登場しています。症状や予算、スケジュールなどに応じて専門医に相談してください。

まぶたのたるみは加齢により誰にでも起こりえますが、コンタクトレンズや二重まぶたを作るための接着剤の使用などが眼瞼下垂症を招く場合もあります。眼鏡を使う、目をこすらないなど、まぶたに負担をかけないことも大切です。